

「公共交通事故被害者等支援フォーラム」を開催しました。

～被害者支援の実現にむけて～

(中国運輸局)

11月18日、中国運輸局の主催により、公共交通の安全・安心の確保や公共交通事故被害者等の支援のあり方について、より一層理解を深めることを目的として、「公共交通事故被害者等支援フォーラム」を開催いたしました。

フォーラムでは、2001年の花火大会時に兵庫県明石市の歩道橋事故で当時2歳の次男を亡くされた下村誠治さんと、2000年に飲酒運転による事故で当時4歳の長女を亡くされた山根和子さんが、被害者の立場から経験談を話されました。



下村誠治さん



山根和子さん

被害者の悲し

み苦しみ、そして、厳しい状況から立ち直っていくためには、周りの理解と協力、そして、国・自治体等の支援が必要不可欠であることを訴えておられました。

お二方の説明に涙する参加者もあり、胸にせまるお話をいただきました。

また、藤原消費者行政・情報課長が公共交通被害者等支援の現状について報告。公共交通事業者による「被害者等支援計画」策定の重要性を説明しました。

今回は全国初の試みとして、「フォーラム」と同時に「生命（いのち）のメッセージ展」を開催し、交通事故等により、理不尽にも生命を奪われた犠牲者の等身大パネルや、彼らの遺品の靴などを展示し、被害者の人権を訴えるとともに、「生命の重み」を伝えました。



藤原課長



今回はフォーラム開催日が犯罪被害者週間の1週間前であったことや、「生命（いのち）のメッセージ展」を同時に開催することで、開催前から多くの反響があり、当日は多数の報道機関の方にも会場に来ていただき、ニュース等に取り上げられ、多くの方に情報発信をすることができました。

こうした「フォーラム」や「メッセージ展」を積み重ね、広く市民の皆様には被害者支援の重要性や役割を知っていただくことが、具体的な被害者支援の実現にむけた一歩につながっていくことだと感じています。